

特別講演 2

「小児肥満とメタボリック症候群」

京都府立こども発育支援センター所長

衣笠 昭彦 先生

厚生労働省が今年 5 月 16 日に公表した 2005 年国民健康・栄養調査で、40～74 歳の中高年男性の 2 人に 1 人、女性の 5 人に 1 人が「メタボリック症候群」の該当者か予備軍であることが明らかになった。増え続ける医療費を抑制するために、10 年程前からすべての都道府県で「生活習慣病」の発生を予防する「県民健康作り」が積極的に展開されてきた。この県民運動をさらに強化、後押しすることにもつながる「メタボリック症候群対策」が最近にわかにクローズアップされるようになってきた。

生活習慣病は以前は成人病と呼ばれていたように、小児には関係ないものと考えられてきたが、実はそうではなく、生活習慣病やメタボリック症候群の芽生えは小児期からの対策が極めて重要になるのである。

今回の講演では小児肥満対策の現状と、小児期からメタボリック症候群の発生を予防することの大切さについて述べる。